

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3170200376
法人名	株式会社 ハピネライフケア
事業所名	グループホーム はあとぴあ
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市久米町200番地 (電話)0859-31-8810
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成21年3月29日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋 造り 3 階建ての 階 ~ 3 階部分	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

### (4)利用者の概要( 3 月 29 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低 81 歳	最高 98 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	米子市中海病院、高島病院、灘尾歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは米子市の城跡の麓の緑に恵まれた場所に位置している。周囲に民家は少ないが事務所前にある弘法大師の毎月の供養祭には多くの参拝者があり、利用者との交流の場になっている。開設されて9年、職員は試行錯誤を繰り返しながら経験を重ねて利用者との馴染みの関係を作っており、なごやかな雰囲気が印象的である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘に対して家族への近況報告を毎月書面で行っている。また、家族の希望を受け入れながら、かかりつけ医・職員とで検討を重ねながら取り組み、ホームでの“看取り”を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義や目的を理解して自己評価に取り組み、それをまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はサービスの現状、活動内容を報告し、意見をもらっている。また、サービス向上のために意見や理解を求める取り組みも行われている。利用者が運営推進会議への参加中に、興奮状態が出た事から、見合わせている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃の面会や電話などで家族が意見、苦情等を言いやすい関係作りにつとめ、対策を講じている。事業所、県、市等の相談窓口が明示され、意見箱も設置されているが家族の活用はみられない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	お大師参りの人々との交流、職員の子供達のボランティア活動、施設内での介護教室開催、傾聴ボランティアの受け入れなど、地元の人々との交流につとめているが、地域の行事への参加は実現できていない。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視した事業所独自の理念を職員で考え、作りあげている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日ミーティング時に全員で唱和し、意識づけを図り、日々の職員間の話し合いの機会にも理念が土台となっている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お大師参りに参加して地域の人と交流したり、職員の子供達のボランティア活動、傾聴ボランティアの受け入れ、施設内での介護教室の開催など地元の人々との交流につとめている。	<input type="radio"/>	自治会に加入しておられる事から、公民館で実施される行事や地元の保育園や学校の行事などに参加されることも良いでしょう。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的を理解した上で、自己評価し、それをまとめあげている。 前回の評価は更正会議を開いて改善に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はサービスの現状や活動内容を報告し、意見をもらっている。また、サービス向上のために当面している課題について討議している。	<input type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	成年後見制度などについて、市の担当者と連携を取り合っているが、利用者のサービスにつなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理の報告、「キラキラ新聞」と近況報告を家族に送っている。 面会時には健康状態などの報告を行い、急変時は電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族も参加してもらっている。日頃遠慮なく意見を言ってもらえるような雰囲気づくりをしているが、面会時や電話等での意見・苦情も意見箱の利用も殆どない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、施設内の他の部署の職員が勤務するときは、利用者との馴染みの関係を大切にした配置を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようになっている。 “入浴”に関する研修などは終末期を迎えた利用者のケアにすぐ役立っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修にも参加し、お互いの情報を交換し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は併設のデイサービス、ショートステイ、小規模ホームを利用している人がほとんどで馴染みの関係が出来ていることが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を支援する側、される側にとらわれず、お互いに一緒に過ごし学び、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし、一人ひとりの思いや意向の把握につとめている。また、傾聴ボランティアが利用者の思いや意向を聞き、職員に伝えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に思いや意見を聞き、カンファレンスで話し合って計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月毎に行われており、状態が変化した場合はカンファレンスを行って新たな計画をたてるようにしている。記録を計画の見直しに活かせるように検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院支援や併設のデイサービスやショートステイのレクリエーションや行事に参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。訪問診療に来てもらっているケースもあり、複数の医療機関と密に関係を結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を大切にして職員全員で話し合い、かかりつけ医との連携も綿密に行われ、職員・家族等繰り返し話し合い、本人家族の希望を踏まえ、ホームでの“看取り”を実施した。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が図られている。 個人情報保護についてもその理解と徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、体操などの決められた日課はあるが、利用者は自由に参加しており個別性のある支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は業者に委託しているが、主食や味噌汁は作っており、買い物や野菜作り(ベランダで)を楽しんでいる。また、みんなで作るおやつ作りも利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月水金と決めているが、それ以外の日も希望により入浴することができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、後片付け、洗濯物たたみ、野菜や花作りなど得意分野で力を発揮できる取り組みが行われている。月1回の外食は利用者の楽しみの行事となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の希望に添って、買い物、外食など外出の支援をされており。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは3階にあつて階段とエレベーターが玄関となっているが、安全面に注意しながら鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した避難訓練が行われており、備蓄も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェックし栄養状態を把握し、また水分不足に陥らないように支援している。食事の献立は委託業者の栄養士によって作られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は台所と食堂兼居間がワンフロアとなつてくつろげる空間となっている。テーブルの生け花やベランダの鉢植えの花に季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は使い慣れた家具などが持ち込まれ、亡き夫の写真が飾られたりして住み慣れた雰囲気を感じられる部屋となっている。		